

## 生涯学習分科会における主な意見

3月22日開催の第85回生涯学習分科会における、「第3期教育振興基本計画の策定に向けた基本的な考え方」に関する主な意見は以下のとおり。

### <基本方針③ 生涯学び、活躍できる環境の整備関係>

#### (社会人の学びの継続・学び直しの推進)

- 多世代で構成される多様な担い手が、生涯学び活躍できる環境を整えていくべき。  
行政に加え、民間企業、NPO法人、社会福祉法人、公益社団・財団法人等も学びの継続、学び直しを支援し、学びと活動の循環の舞台を提供する主体として捉えていくことが重要。大学も生涯学習の担い手としての役割が期待されており、小・中学校は大人の学びの実践の場、子供たちとの協働の場となっている。

#### (人生100年を見据えた「二つ目の人生を生きる力」の養成)

- 国の世論調査で過半数の人がどちらかという老後のイメージは不安と回答するなど、二つ目の人生に対して不安に思っている方が多い一方、60代で学習活動をした人が6%にとどまるなど、キャリア的な準備ができていない状況。人生100年を前向きに考えて不安を払拭して準備ができるかは大きなテーマ。
- 退職してから二つ目の人生を考えるのではなく、常日頃からワークライフバランスや人生の将来目標を見定めることが重要。
- 二つ目の人生でチャンスが色々ある社会は、一つ目の人生でもそのような仕組みになっている。本気のやり直し、コース変更が、年齢、属性を問わずできる社会、選択肢が広がる社会に向けて生涯学習の概念も広がっていくと良い。
- 学びを日常生活で活用しながら新しい社会、地域を創り、自らがその主役になる生き方をする。全ての人々が社会の担い手となり、自らが学びにより変化し続け、社会を変えていく、そうした位置づけのものとして学びの概念のあり方を検討していくことが重要ではないか。また、全ての人々が活躍できるような社会の在り方とは一体何か、社会の持続可能性を高めていくにはどうしたらよいか、といった議論ができると良い。
- 健康寿命を延ばすだけでなく、貢献寿命を延ばすことがこれからの課題。高齢者はいくつになっても地域で人とつながることが重要。そのため、例えば、子どものときから社会に関わる時間を設け、成人になっても生涯学習として続けることなどが考えられる。

**<基本方針④ 誰もが社会の担い手となるための学びのセーフティネットの構築関係>**  
**(全ての人々が教育を受けられる機会の確保)**

- 教育や学習が、子供に対するものというだけではなく、高齢者に対しても、将来への投資ではなく現在の社会保障となり、社会の持続可能性を高めていくものとなる。

**(学校・家庭・地域が連携した教育格差への対応)**

- 高齢者の生活を豊かにする際の課題と子供の成長における課題を関連させて解決しようとするとき、協働していくポイントをどのように見出していくかが重要。
- 生涯学習を大人の話としてではなく、子供との関連を持たせるような形にすべき。地域学校協働活動を推進する際、大人が生涯学習をする中で、貧困等で困窮する子供の課題解決にもつなげていくという視点があるとよい。

**<基本方針⑤ 教育政策推進のための基盤を整備関係>**  
**(ICTの利活用)**

- 学校が廃校になると地域が先細ることになる。ICT学習環境を各地で整え、子供も大人もどこでもネットワーク型の勉強ができる環境を早く整えていくことが必要。